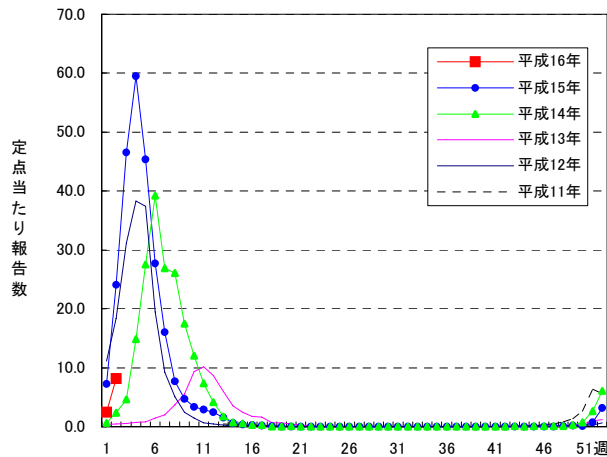


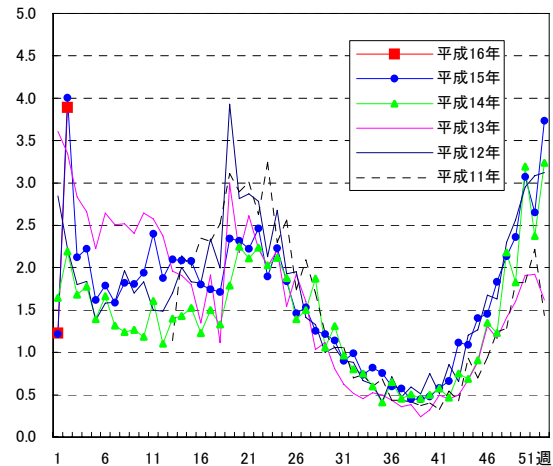
- 集団かぜの発生について (第 1 報)
- 鳥インフルエンザについて

### 流行状況

インフルエンザ



水痘



疾患名	前週	今週	備考
<u>感染性胃腸炎</u>	3.0 ↓	8.1 ↑	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>インフルエンザ</u>	2.4 ↓	8.1 ↑	インフルエンザウイルスによる急性感染症で高熱、四肢疼痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振を主症状とする
<u>水痘</u>	1.2 ↓	3.9 ↑	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人にうつる感染症

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
↓ 減少	→ 横ばい	↑ 増加

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

## トピックス

### ● 集団かぜの発生について(第1報)

1月13日、今シーズン最初の集団かぜの発生が愛知県内(名古屋市を除く)の1校の小学校から報告されました。この小学校では、1月14日から1月15日の期間で学年閉鎖が実施されます。

### ● 鳥インフルエンザについて

平成16年1月12日に、山口県の養鶏場にてH5N1型高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたとの発表がありました。インフルエンザウイルスはA、B、Cの3つの型に分かれますが、鳥類に感染するのはA型インフルエンザウイルスのみです。A型はさらにウイルスを構成するH(Hemagglutinin,ヘマグルチニン)とN(Neuraminidase,ノイラミニダーゼ)と呼ばれるタンパク質の抗原性の違いからHが1~15、Nが1~9の亜型にさらに分類されます。(図参照)この中で感染した鳥に全身症状などの強い病原性を示すものを高病原性鳥インフルエンザ(別名家禽ペスト(fowl plague))としています。最近、世界的にはH5型によるものとH7型によるニワトリや七面鳥などでの集団発生が報告されています。

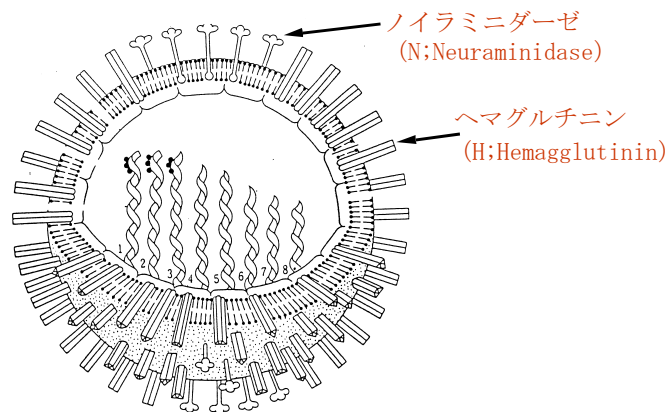
以前は、鳥のインフルエンザウイルスは人には感染しないとされていました。しかし、1997年の香港でのH5N1型鳥インフルエンザウイルスの人への感染事例(18例)の発生以来、1999年と2003年の香港でのH9N2型、2003年のオランダ・ベルギーを中心としたヨーロッパでのH7N7型(90人近い感染者が主として養鶏業者や獣医師及びその家族などに発生しましたが、インフルエンザ症状を示した人は少数で多くの人は結膜炎などの症状が主でした。)、それに同年12月のヴェトナムでのH5N1型のニワトリを中心とした鳥インフルエンザウイルスの流行時に数は少ないとはいえ人への感染事例が確認され、97年の香港での流行時には6名の、昨年のヨーロッパでの流行時(1名)及びヴェトナムでの流行時(3名)にも死者が確認されています。いずれの事例においても人での感染は小規模で終息していることから、鳥インフルエンザウイルスの人への感染力は非常に弱いと考えられます。また、これらのウイルスは現時点ではヒトからヒトへの感染は起こさないものと考えられています。

鳥インフルエンザウイルスがどのようにして人に感染するかについては今のところ十分に解明されていませんが、感染したニワトリは呼吸器だけではなく腸管からもウイルスを排泄するため、感染した鳥が使用した水や排泄物からの感染の可能性、それに、ウイルスを含んだこれらのものがホコリと一緒に舞い上がり、それを吸い込んだ為に感染したなどの可能性が指摘されています。香港やヴェトナムではニワトリが生きたまま市場で売られていることも多く、一般の市民が鳥インフルエンザウイルスに汚染された糞便等に直接・間接的に接する機会が多いことから、上に述べたようなウイルスとの接触によって感染したのではないかとみられています。また、メディアでも繰り返し報道されていますが、鳥インフルエンザウイルスは鶏肉や鶏卵などを介しては感染しないものと考えられています。

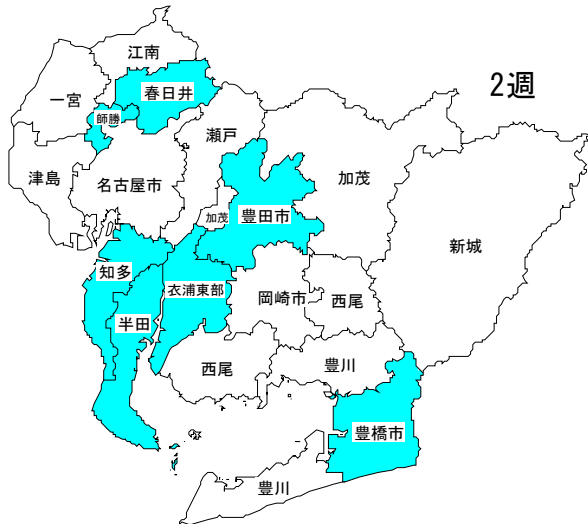
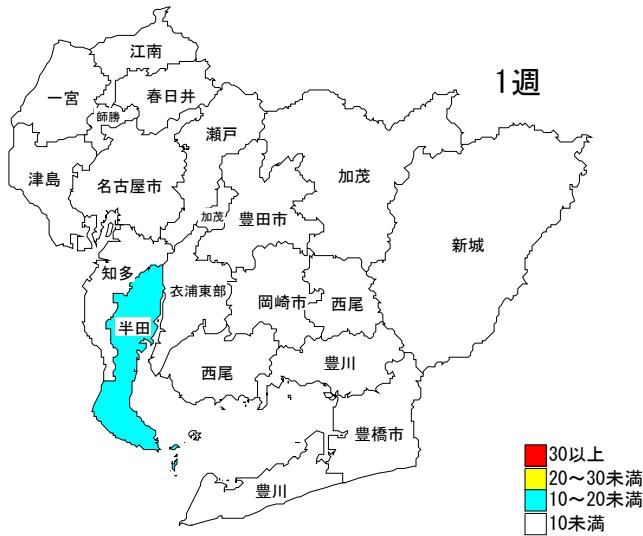
以上のような事実から、現時点で一般の日本人が鳥インフルエンザウイルスに感染する可能性は非常に低く、現在実施されているニワトリや鶏卵の処分・回収や移動禁止などの措置は、鳥インフルエンザウイルスのニワトリを中心とした鳥類での感染拡大予防策であり、人への感染の危険性が高いことから大量のニワトリを緊急に処分している訳ではないことを再認識して下さい。

しかしながら、鳥インフルエンザウイルスに感染している可能性のあるニワトリなどの処分やウイルスが存在する可能性の高い養鶏場内での作業や立ち入り調査に際しては、生きたニワトリなどだけでなく乾燥した排泄物に含まれるウイルスの人への感染も考えられることから、皆さんがテレビなどで眼にされるようなマスクや手袋それに防護服で身を固めた格好での作業が必要となります。また、鳥インフルエンザウイルスがブタに感染したり、希にヒトに感染した場合、ブタやヒトの体内でヒトに感染可能な A 香港型等のインフルエンザウイルスと遺伝子を交換し、大部分のヒトが免疫を持たないヒトに感染しやすい新型インフルエンザウイルスが出現する可能性も考えられます。そのため、インフルエンザシーズンを迎えた現時点においては厳重な警戒と感染拡大防止策の考慮が必要となります。

#### インフルエンザウイルスの構造



# インフルエンザの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

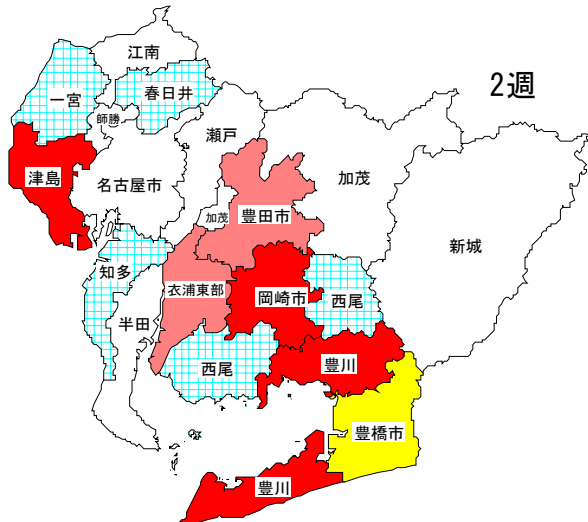
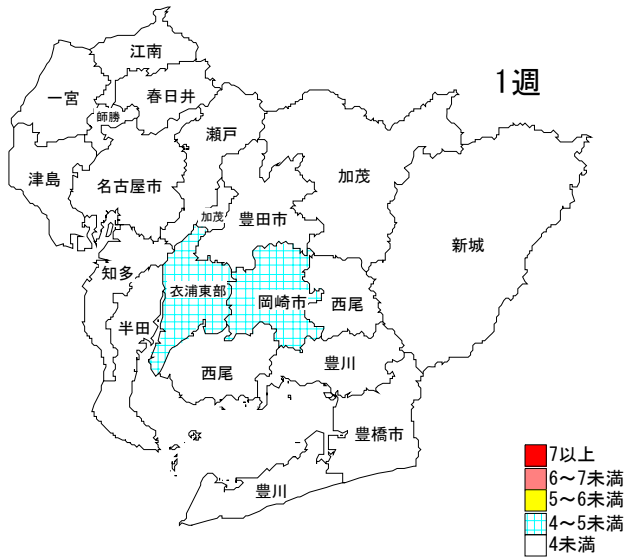


		2週	定点 当たり	1週	定点 当たり			2週	定点 当たり	1週	定点 当たり
名古屋市		410	5.86	67	0.96	岡崎市		49	4.45	19	1.73
瀬戸		70	7.78	45	5.00	衣浦東部	△	183	16.64	63	5.73
津島		65	9.29	0	0.00	西尾		33	6.60	0	0.00
師勝	△	44	11.00	4	1.00	豊田市	△	83	10.38	45	5.63
一宮		73	4.56	12	0.75	加茂		6	2.00	2	0.67
春日井	△	155	17.22	26	2.89	豊橋市	△	152	12.67	17	1.42
江南		21	3.50	5	0.83	豊川		58	6.44	4	0.44
半田	△	89	14.83	93	15.50	新城		8	4.00	7	3.50
知多	△	86	12.29	67	9.57						

△ は今週注意報が出ている保健所です

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所(市)定点当たり10人を越えた場合に、また、流行発生警報は30人を越えた場合に発生し、10人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## 水痘の保健所別報告数の推移（名古屋市含む）



	2週	定点 当たり	1週	定点 当たり		2週	定点 当たり	1週	定点 当たり		
名古屋市		134	1.91	24	0.34	岡崎市	○	64	9.14	32	4.57
瀬戸		19	2.11	13	1.44	衣浦東部	△	69	6.27	49	4.45
津島	○	54	7.71	6	0.86	西尾	△	24	4.80	4	0.80
師勝		6	1.50	2	0.50	豊田市	△	49	6.13	5	0.63
一宮	△	56	4.67	15	1.25	加茂		3	1.00	0	0.00
春日井	△	41	4.56	14	1.56	豊橋市	△	41	5.13	15	1.88
江南		22	3.67	11	1.83	豊川	○	82	10.25	14	1.75
半田		12	2.00	4	0.67	新城		1	0.50	0	0.00
知多	△	31	4.43	15	2.14						

△ は今週注意報が出ている保健所です  
○ は今週警報が出ている保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる水痘の流行発生注意報は保健所（市）定点当たり4人を越えた場合に、また、流行発生警報は7人を越えた場合に発生し、4人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

- 病原性大腸菌 O18 1歳男1名、2歳男1名、3歳女1名  
病原性大腸菌 O25 7歳女1名  
マイコプラズマ肺炎 1名  
ロタウイルス 3名  
アデノウイルス 1名  
胃腸風邪(ロタ、ノロ)ウイルスとマイコプラズマとアデノウイルスが多く、インフルエンザも増加傾向です。  
【尾西市 城後小児科】
- インフルエンザ8人すべてA型、1/10(土)に5人と急増傾向  
水痘、感染性腸炎ひきつづき流行あり。  
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- インフルエンザ全例A型、1名ワクチン接種後罹患  
【一宮市 後藤小児科医院】
- アデノウイルス感染症 3歳女  
水痘まだ発生しています。  
インフルエンザ全てA型です。多くはワクチン済です。  
【一宮市 平谷小児科】
- マイコプラズマ肺炎 9歳女  
【稲沢市 野村整形外科】
- りんご病、水痘の小流行が見られました。  
胃腸かぜが続いていますが、カンピロバクター等、細菌性のものも見られます。  
インフルエンザウイルス感染症も見られる様になりました。  
【犬山市 武内医院】
- 溶連菌感染症、感染性胃腸炎やや減少していますが、流行は続いています。  
A型インフルエンザ 5歳男 1名  
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- 水痘が続発中  
インフルエンザは10例 全てA型です。  
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- 4歳女 水痘(ワクチン接種済み)  
6歳男、72歳女 マイコプラズマ感染症  
インフルエンザいずれもA型です。  
【春日町 丹羽医院】
- インフルエンザはすべてA型でした。  
【立田村 医療法人谷本医院】

### 尾張東部地区

- 感染性胃腸炎が多くみられます。  
A型インフルエンザがではじめました。  
12例中2名はワクチン接種あり(6歳女、14歳女)。高熱も出ています。  
【瀬戸市 津田こどもクリニック】

- 
- 今週からインフルエンザ見られるようになりました(成人、小児ともに全てA型です)。下痢を伴う例が多いようです。  
今週もアデノウイルス感染症(咽頭結膜熱 1例 2歳女児)、マイコプラズマ肺炎多くみられております。  
その他、嘔吐、下痢も多くみられました。  
【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】
  - 1/7 59歳女 A型インフルエンザ  
1/5 41歳女 黄色ブ菌感染性腸炎  
【豊明市 豊明団地診療所】
  - インフルエンザA型 19例、B型 2例、A・B 1例(この内ワクチン接種者は3例のみ)  
水痘、ムンプス、アデノ感染症つづいています。  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
  - 5ヵ月女児でインフルエンザA抗原(+)がありました。  
家族全員がインフルエンザに罹患した症例です。  
溶連菌感染症も2名みられました。  
【春日井市 かがわ北病院】
  - インフルエンザの診断はエスプラインによるものです。  
【春日井市 竹内医院】
  - インフルエンザ(A)少しずつ出てきた。(症例は軽い、発熱1日ぐらいいも多し)  
RS(+)細気管支炎多し  
アデノ咽頭炎やや減少  
【小牧市 小牧市民病院】
  - インフルエンザ増加傾向です。  
【小牧市 志水こどもクリニック】
  - インフルエンザA 2件  
【半田市 医療法人林医院】
  - インフルエンザ全てA型  
胃腸カゼも多い。  
【南知多町 医療法人大岩医院】
  - インフルエンザA型が90%、B型が10%位の割合です。  
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
  - インフルエンザ流行の兆しあり。迅速テストですべてA型です。  
【大府市 まえはらこどもクリニック】
- 

## 西三河地区

---

- 6歳男、8歳女 アデノウイルスイムノカードST(+)  
8ヵ月男 ディレクティジェンRS(+)  
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザ10名すべてA型で、内ワクチン接種済み者は3名でした。  
【豊田市 田中小児科医院】
- インフルエンザ2名すべてA型でした。  
【豊田市 わかぞの東洋クリニック】
- 11ヵ月女 病原大腸菌O25  
【豊田市 すくすくこどもクリニック】

- 
- インフルエンザはすべてA型です。  
【岡崎市 花田こどもクリニック】
  - 3歳男 イムノカードST アデノウイルス(+)  
5歳女、10歳男 マイコプラズマ肺炎  
【岡崎市 にいのみ小児科】
  - 2歳男 病原大腸菌O6  
6歳男 マイコプラズマ肺炎  
A型インフルエンザ 8名中 4名はワクチン接種済  
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
  - 35歳男 インフルエンザA型  
【岡崎市 永坂内科医院】
  - 1月10日今シーズン初のインフルエンザ 同日のみで2家族5名(3ヵ月児～39歳、全例A型)  
【岡崎市 村山医院】
  - 水痘流行中  
インフルエンザA 1歳男  
【刈谷市 まついこどもクリニック】
  - キャピリアFluA(+) 5例  
【刈谷市 田和小児科医院】
  - インフルエンザA型 12名  
【知立市 宮谷クリニック】
  - インフルエンザA 親子3人  
【西尾市 やすい小児科】
  - A型インフルエンザ 9人  
いまのところ全体に症状が比較的軽いように思われます。  
【西尾市 山岸クリニック】
  - 1歳男 SSSS\*  
1歳女 アデノウイルス滲出性扁桃炎  
インフルエンザは全例A型です。  
【幸田町 とみた小児科】
- \* SSSS : ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
- マイコプラズマ肺炎 2歳男  
感染性胃腸炎が流行しています。  
【三好町 三好町民病院】
- 

## 東三河地区

---

- インフルエンザA型が少し流行してきました。  
3歳男 カンピロバクター  
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
  - インフルエンザ(エスプラインFluA(+))が増えてきましたが、水痘もあいかわらず多く見られます。  
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
  - 6歳女 マイコプラズマ肺炎  
今週急にインフルエンザが増えてきました。ほとんどA型です。  
【豊橋市 野村小児科】
-



- 全てインフルエンザA型でした。  
【豊橋市 医療法人山本内科】
- 79歳女 インフルエンザA 肺炎所見あり。  
入院加療となったインフルエンザワクチン未接種  
【豊橋市 おだかの医院】
- インフルエンザが増えてきました。(計 52 例すべてA型と診断)  
年齢は4ヵ月から69歳と幅広く、20歳以上が22例ありました。  
予防接種済みが8例でした。  
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
- 正月明けよりインフルエンザが出てきました。いずれも A 型で両親からの感染でした。  
【豊川市 医療法人こざわ小児科】
- インフルエンザ出現、ワクチン接種するも罹患している患児あり。  
水痘 増加している、兄妹例が目立つ  
【田原市 かわせ小児科】

## 一～三類感染症の発生状況 — 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 細菌性赤痢

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	師勝	36	男	1/2	1/5	1/5	疑似症	1週報の再掲
2	西尾	30	男	12/28	12/29	1/5		1週報の再掲

## 四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 — 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 後天性免疫不全症候群 1例  
(AIDS、推定感染経路:不明、推定感染地域:不明)

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

明けましてお目出度うございます。本年もよろしく願いいたします。暮れからお正月はとても良い日和りでしたのに、ここしばらくは震えあがってしまう寒さが続いて冬休み明けの集団登校の小学生たちの頬が真っ赤です。いつも貴重な情報を有難うございます。

12月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内:名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザが増加傾向で水痘も多発、インフルエンザの要入院例、マイコプラズマを含む気管支炎・肺炎、感染性胃腸炎の入院が目立つ、第一日赤松山先生からは溶連菌感染症、水痘、インフルエンザAが散発、急性気管支炎と感染性胃腸炎の入院が目立つ、城北病院渡辺先生からはインフルエンザが徐々に増加、ワクチン接種者で陽性例時々あり、急性胃腸炎は来院者は多いが昨年ほどではない、マイコプラズマがまだ散発中、急性胃腸炎と思われた例で肺炎球菌敗血症(髄膜炎合併)あり、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザAが増加中でウイルス性腸炎が多く、ロタウイルス感染症もあり、肺炎の入院も目立つ、千種区今枝先生からは水痘時々、感染性胃腸炎が多発、一家全員の例もあり、急性肺炎13歳と2歳の2例(外来にて治癒)、三菱病院入山先生からは水痘と溶連菌感染症(3名入院)がやや目立ち、A型インフルエンザ8名(肺炎合併で2名入院)、マイコを含む肺炎が多く、感染性腸炎(病原性大腸菌O1が2名、O18が1名)、感冒性嘔吐下痢症・脱水で2名入院(ロタ陰性)、労災病院山田先生からはRSウイルス細気管支炎、咽頭結膜熱(入院あり)、インフルエンザA、ムンプス、カンピロバクター腸炎、マイコプラズマ肺炎、大同病院水野先生からはアデノウイルス?インフルエンザ陰性で高熱、気管支炎、胃腸症状合併例が特に年末に多くインフルエンザ散見、ムンプス、水痘が流行中でRSウイルスによる細気管支炎、ロタウイルスによる痙攣の例などあり、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区:犬山市武内先生からは感染性胃腸炎が多発中、溶連菌感染症と水痘也多発していてアデノウイルスと思われる高熱・咳を主訴とする疾患とマイコ様の呼吸器感染症が多く12月26日4歳児の1例、29日には32歳の母親がA型インフルエンザ感染、江南市昭和病院小児科からは溶連菌感染症が目立ち、RSウイルス感染症、アデノウイルス性咽頭炎、マイコプラズマ肺炎が目立ちインフルエンザA陽性2例あり、瀬戸陶生病院山口先生からはノロウイルスによると思われる急性胃腸炎増加、RSウイルス感染症増加、マイコプラズマ感染症散発、B型肝炎母子感染による生後2ヵ月の重症肝炎例あり、常滑市民病院上田先生からは溶連菌感染症とロタウイルスを含むウイルス性腸炎が目立ち、インフルエンザもぼつぼつ発生、マイコプラズマ肺炎の入院が目立つとのお手紙です。
- 3) 三河地区:トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザが少し発生、アデノウイルス、ロタウイルス、RSウイルスによる入院あり、知立市近藤先生からはムンプスと水痘が流行中で溶連菌感染症がパラパラ、乳児学童の嘔吐性感冒多発中、刈谷市田和先生からはムンプスと水痘時々、インフルA型4例、ロタ陽性1例、咽頭からアデノ陽性3例(結膜炎合併2例)、碧南市永井先生からは嘔吐を主症状とする胃腸炎が多く、溶連菌感染症、水痘も多い、豊橋市からは感冒性胃腸炎、水痘、ウイルス性気管支炎、マイコプラズマ肺炎が目立つ(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

**2004年12月5日（78巻49）**

☆ HIV/AIDS。世界の状況。第1部。2003年末。WHOと国連AIDSの推定では03年末でのHIV感染者/AIDS患者の生存者（People living with HIV/AIDS, PLHA）は4千万（地図あり）、03年の新規感染者は5百万（うち70万は15歳未満）で男女比は地域差が大きくアフリカ地区では女性感染者が多くなっている。全般的には殆どのHIV感染は低所得～中所得の諸国に多く、HIV感染が始めは無症状である故に、感染者は感染に気付いていない。HIV/AIDS感染は人類にとって重荷であり続け、推定では03年のアフリカ・南サハラ諸国の最大死因であり、世界規模でも4位である。①アフリカ地区：03年の南サハラ諸国のAIDS死亡数は230万、新規感染者320万であり、WHOアフリカ地区の発表では地域差が大きく、最大の発生は南アフリカ諸国である（地図、表あり。スワジランド、ボツワナ、ジンバブエ、南アフリカ、マラウイが目立つ）。問題は15歳－24歳の若年者に新規感染が多いことで、出生前検査で都市部の若手妊婦の陽性者増加が13カ国から報告されている。②南アジア地区と太平洋地区：性感染症と薬剤常用者。タイとカンボジアでは再び増加する傾向が危惧されている。③ラテンアメリカとカリブ海諸国：ラテンアメリカでは若者の同性愛者と薬剤常用者、カリブ海諸国では異性愛者が流行の中心（カリブ海諸国はアフリカについて多発）。抗ウイルス剤の普及が発生状況に与える変化に注目。④東欧と中央アジア：薬剤常用者中心の発生が増加中。⑤北アフリカと中東：スーダン以外は増加は低い。薬剤常用者。⑥北アメリカ、西欧：ほぼ横這い。発病予防にはある程度成功しているが、新規感染者あり。

☆ インフルエンザ。カナダ：A（H3N2）流行中。02年の流行株と同じ。フランス：増加中。A（H3N2）。02年のフィジーの株と同じ。イスラエル、ノルウェー、スペイン、英国、米合衆国：A（H3N2）流行中。02年流行株と同じ。他諸国は散發。

☆ 11月28日－12月4日届出。コレラ：リベリア、マリ。

**2003年12月12日（78巻50号）**

☆ WHO狂犬病ウェブサイトの更新。<http://www.who.int/rabnet>。

☆ HIV/AIDS。世界の状況第2部。03－05年、抗HIV剤投与の必要度と普及状況。UNAIDS/WHOによる推定。多剤併用によるHIV発病予防（combination antiretroviral therapy, ART）によりHIV関連の発病・死亡は劇的に減少した。ここではWHOによるARTを必要とする人数と実際の普及状況がまとめられている。WHOの地域別の推定（一覧表あり）では、投与必要者数（括弧内は実際の投与率）はアフリカで440万（2%）、南北アメリカで25万（84%）、東欧と中央アジアで8万（19%）、東地中海地区で10万（5%）、東南アジアで90万（7%）、西太平洋諸国で17万（6%）、世界全体で590万（7%）となっている。

☆ インフルエンザ。カナダ、デンマーク、英国、米合衆国：A（H3N2）流行中。

☆ 12月5日－11日届出。コレラ：ベニン、コモロ、コンゴ、ジンバブエ。

**2003年12月19日号（78巻51・52号）：78巻の総索引**

## 第51週(15年12月15日～12月21日)の4類感染症 (全国)

### ● 小児科定点報告疾患

インフルエンザの定点当たり報告数は未だ低値ではあるが、徐々に増加している。都道府県別では山形県(8.1)、群馬県(4.9)、福島県(4.3)が多い。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後減少し続けた後、第43週から再び増加傾向が認められており、第51週も微増した。第51週までの累積定点当たり報告数の過去10年間の平均と比較して3倍を示す大きな流行となっている。都道府県別では山形県(2.4)、愛媛県(1.0)、岐阜県(0.8)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第34週から増加傾向が認められており、第51週も増加した。過去5年間の同時期(前週、当該週、翌週)と比較してやや多く、都道府県別では鳥取県(6.0)、山形県(5.1)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第43週から増加しており、第51週も増加した。過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県(40.5)、大分県(39.9)が多い。水痘の定点当たり報告数は第41週から増加しており、第51週も増加した。過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では新潟県(6.4)、山形県(6.3)、愛媛県(5.1)、熊本県(5.1)が多い。RSウイルス感染症の報告数は、31都道府県(0の報告も含む)から合計300例であった。

### ● 基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加して0.39で、都道府県別では岡山県(3.4)、山形県(1.4)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋  
厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センターのホームページ  
(<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報  
をご覧ください。



